

カルメル

霊性センターニュース

2023年10月

401号

購読者の方々へのお知らせ

+主の平和

『カルメル霊性センターニュース』を常日頃からご愛読・ご利用頂きありがとうございます。

月刊誌として毎月発行してきた冊子でございますが、今年度を以て紙面としては終了する事となりました。

はじめは故奥村神父様が創められた数枚の発行物が頁数を増やし、400号にも亘り続けられました事、皆様のご協力、御献身に心より感謝申し上げます。

昨年度よりホームページへの掲載を始め、紙面からWebへの移行を進めて参りましたが、今年12月号を以て、紙媒体での発行を終了とさせていただきます。

皆様へは急なお知らせとなってしまいました事、深くお詫び致します。

『カルメル霊性センターニュース』は今後、Webでどなたでもご覧になれるものとして、これからもご愛用頂ければと思います。
宇治カルメル会のホームページにて、過去のバックナンバーも含めて掲載されておりますので、是非ご利用下さい。

宇治カルメル会修道院ホームページ
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

心より感謝と祈りのうちに

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「霊性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

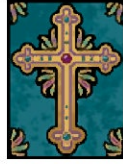
目次

カルメル聖性センターニュースWeb移行へのお知らせ	・・・ 1
目次	・・・ 2
心の泉	・・・ 3
カルメル会の企画案内	・・・ 25
東京	・・・ 26
京都	・・・ 28
名古屋	・・・ 32
諸所の企画案内	・・・ 33
通信深読お申込みのご案内	・・・ 38
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	・・・ 39

心の泉



アヴィラの聖テレジア像(宇治カルメル会修道院)



第三卷

第五十七章 過ちを犯しても、落胆してはならない

2 むだな言葉を避ける

そんな時には、できるだけそうしたことを忘れるようにしなさい。不幸にあっても落胆せず、長くそれに閉じこめられないように気をつけなさい。喜んできませんなら、せめて忍耐をもって不幸を受け入れなさい。不愉快なうわさにつつまれても、また憤りが起こっても、自分をよく抑え、人々をつまずかせるような軽率な言葉を吐かないように注意しなさい。

あなたの心に起こった嵐は、すぐおさまる。そして、内部の苦しみは、神の恵みによって和らげられるだろう。「私は生きていと主は言われる」(イザヤ 49・18)、私に信頼し、敬虔に乞い願えば、私はいつもあなたを助け、いつもより豊かに慰めるつもりである(バルク 4・30 参照)。

3 天使ではなく肉である

心を落ち着かせ、大きな試練に耐える心構えをしなさい。悩みといざないを感じても、何もかもが終わったのではないと思いなさい。あなたは神ではない、人間である。天使ではなく肉である。天における天使、樂園における人祖さえもできなかったことなのに、どうしてあなたが、つねに徳にとどまれようか？人間を回復させ、悲しむ人々に喜びを与える(ヨブ 5・11 参照)のは私である。弱さを認める者を、神性にあずからせるのは私である。》

4 子

《主よ、「私の口のなかで、蜜よりも甘いあなたのみことば」(詩編 19・11)は祝されますように。これほどの患難と試練とのなかにある私を、そのみことばで慰めてくださらなければ、私はどうなったことでしょう。救いの港にたどり着けるなら、それほどの苦しみを忍んだとしても、それが何でしょう。主よ、よい終わりを私にお与えください。私をこの世から安らかに旅立たせてください。「私の神よ、私を忘れないでください」(ネヘミア 13・22)。まっすぐな道を通して、私をみ国に導いてください。アーメン。》

教会には、ときに本質を見失わせる多くの方法や手段や組織よりも、愛に惹きつけ、神に近づかせるテレーズのような心が必要です。幼いイエスの聖テレーズに、私たちのエゴイズムを乗り越える恵みと、イエスが知られ愛されるように取り次ぐ情熱を願いたい。



教皇フランシスコ

1日 テレーズ



- *一瞬一瞬だと多くを耐えることができます。
- *そうです。善を自分の回りに時かなければなりません。でも芽が出るかどうか心配することなく。
- *与えられた唯一の苦しみの時をよく利用しましょう。今というその時、その時だけを眺めましょう。一瞬一瞬は宝です。たった一つの愛の行為も、イエスさまをより深く悟り、永遠にわたって、イエスさまのより近くに私たちを運んでくれることでしょう。

*あなたの望みや希望に限度をおくのは、神の無限の慈しみを見くびることです。神の慈しみへのはてしない望みは私の宝です。

15日 テレサ祝日

神はすべてをご自分でなさるために、すべてを神に委ねるよう私たちの決意だけを待っておいでになります。創・28・19



<どんな重大な決定にも祈りを先行させるように>

<最良の友に聴くように神に聞きましょう。

神のみ旨に従うなら何も恐れることはありません…> テレサの手紙より

私にお与えください 死か生か 健康か病か 名誉か不名誉かいずれもお受けします
私は あなたのもの あなたのために私は生まれました テレサの祈り

神が全く自由にご自分を与えることができる人を見つける時、その喜びはいかばかりでしょう！窓を開けさえすれば、すぐ部屋に光が差し込みます。10月の日々が晴れていても曇っていても、心の窓を神に大きく開いてみたい。

伊従 信子 (いよりのぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

十字架山

くのり 彰

1867年、自葬事件から浦上四番崩れが始まる。翌年捕らえられた浦上の村民3384人は、西日本の諸藩（20藩22か所）に流される。中でも加賀藩は最大566名を引き受けた。戸主を中心とした百余名は、瀬戸内海経由で大阪に到着し、陸路金沢へ。卯辰山の織屋に入れられる。その後、残りの女子供を中心としたグループは、日本海経由で七尾に到着、やはり卯辰山の湯坐屋に入れられる。

欧米列強に追いつけ、追い越せと「富国強兵策」を取った明治新政府は、国家神道をもって日本人を精神的にたばねようとしたのであろう。1868年4月7日に全国に「五榜の掲示」の高札を掲げ、切支丹邪宗門という江戸幕府と同じ禁教政策を取る。しかし、切支丹迫害の報が欧米に伝わり、各国政府から非難攻撃されると、やむなく政府は、1873年2月24日、高札を取りはずす。これによって表面的にはキリスト教信仰は認められることとなったが、実質的には1945年の日本の敗戦に至るまで、つまり、明治以降の政府が瓦解するまで、国民感情の中には切支丹禁令は生きていたのではないだろうか。

いずれにせよ、高札が撤去された時、浦上の村民は、各地の流刑地から故郷浦上へともどって行った。そして荒れ果てた土地を耕し、略奪破壊された家屋の代わりにバラックを建て、村の再建に踏み出すのだが、この時、転んで先にもどっていた村民と、最後まで耐え忍び、やっとの思いでもどって来た村民との間に感情的なわだかまりが生じたそうである。具体的にどのようなことが起きたのか詳細は知らないのだが、両者の反目は想像するに難くない。

だが、キリスト者同士が互いに裁き合い、ののしり合うことは恥ずかしいことである。互いに赦し合い、愛し合う共同体とならなければと考えたのであろう。浦上教会から30分ほどの丘に、和解のために大きな十字架が建てられ、村人は皆その前で祈ったということである。それ以来、その丘は十字架山と呼ばれているという。

人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。(ルカ6・37)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（183）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架と栄光（4）

死の五カ月前にセゴビアにいた時、ヨハネは、兄のフランシスコ・イエペスと話をしながら、彼にこう言いました。「お兄さん、私が労苦を耐え忍んでいると聞いても、悲しまないでください。私がそれを神に願ったのだということを知っておいてください」。このヨハネの兄フランシスコとは、十字架のヨハネ修士から主との間に起きたことを打ち明けられ、それを物語った人です。それによれば、主は、彼の奉仕に報いたいと願い、ヨハネ修士にこう尋ねます。

「—ヨハネ修士よ、望むことを何でも願いなさい。私にしてくれたこの奉仕に対し、私はあなたに報いを与えたいのだ。さあ、答えなさい。

—主よ、私に与えてほしいと思うことは、あなたのために労苦を耐え忍ぶことと、私が軽蔑され、ないがしろにされることです」。

彼の祈りと願いは、彼の人生の最後の厳しい試練が証ししているように、見事に聞き入れられました。



(P. 九里)

年間 第26主日 (A)

(マタイ 21 : 28 - 32)

本日の福音には、二人の息子の譬え話があります。一人目の息子は父親に「No」と言いましたが、後で考えなおして父が求めたことを行いました。もう一人の息子は「Yes」と言いましたが、父親が頼んだことは何一つ行いませんでした。息子たちは二人とも不完全にみえます。完全な息子とは、父に「Yes」と言って父の意志を行うことです。

この譬え話で、最初の息子は私たちにとってとてもよいお手本となります。彼は「No」と言いましたが、その後考えを変えてブドウ園へ働きに行きました。譬え話のよい知らせは、私たちは神の祝福によって「No」を「Yes」に変えることができるということです。聖書の中で私たちはこのような行いを見つけます。例えば、ペテロはイエスを否みますが、後で後悔します。トマスはイエスの復活を受け入れるのを拒みますが、後で信じる人になります。パウロは、初代のイエス信望者たちを迫害しましたが、その後改宗して、教会の偉大な使徒の一人となりました。同じくアウグスチヌスは、若い頃は放蕩生活を送りましたが、後に偉大な霊的教師の一人となりました。

福音は、私たちに自分自身を調べるように招いています。自分の生活の中で私たちは何に「No」と言っているのでしょうか？変える必要があるのは何でしょうか？自分と異なった考えや行いをする人に我慢できないで、他者を裁いていませんか？福音は、自分自身の欠点を認めるように示しています。従順は、「Yes」あるいは「No」ということに固執しないで、常にブドウ園で働き、耕し、神のみ國をもたらすことです。全ての罪人は、神の恵みにより、変化する可能性を持っています。回心しようと神に向かって心を開く全ての人に、神はいつでも恵みを与えてくださいます。キリストの教えを聞き、後悔し、生活を変えた取税人や、売春婦のお手本があります。回心は、私たちが常に求めなければならない恵みです。「主よ、私が進歩し、回心する人となる恵みをお与えください。私の日常の生活の中で神的招きに対して「Yes」と言えるよいキリスト者になれる恵みをお与えください。」

(Sr. Pauline)

年間 第27主日 (A)

(イザヤ5 : 1-7、マタイ21 : 33-43)

今日の福音は「ぶどう園と農夫」のたとえ話です。第1朗読のイザヤ5章1-7節が反映されていることが窺えます。イエス様はイザヤ書によく親しんでいたのでしょう。イザヤ書から読み取れる、父なる神様の人に対する配慮、人が生きられるように、いのちが輝くようにとこれでもかと環境を整えて下さっておられる神様の姿が描かれています。神様は最上の良いぶどう(ソレーク)を植え、環境を整えて配慮しながら、普通のぶどう(エナーヴ)が実るのを期待していましたが、実ったのは酸っぱいぶどうだったため嘆かれ、怒ります。公正と正義を実現するはずのイスラエルが、流血と叫喚をもたらしていたからです。

福音ではイエス様はこの話を援用しながら、ご自身の使命について語りまします。今日の福音の43節「だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる」をどのように捉えるかによって捉え方が異なってきます。学者によれば、43節は前の文脈と寓喩の意味が分断されているため、マタイ福音書のオリジナルではなく、初代教会の解釈を後から付加したものと考えられています。そのため43節を切り離して元々のマタイのメッセージを探ってみましょう。農夫たちにひどい目に遭わせられて殺され、捨てられたブドウ園の主人の息子が、42節で「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える」と言われます。イエス様はこの喩え話を通してご自身の救いの使命について語っておられます。

御父なる神様は、旧約で、ご自身の民を何とかして正しい道に歩んでもらおうとこれでもかと配慮しましたが、叶わず、怒りを顕わにされました。その神様は怒りは人を救うための新たな熱意となって、独り子イエス・キリストを捧げることへと進んでいきます。神様の怒りは今や、罪びとをゆるして新たに生まれさせる、十字架による救いとなりました。今日の福音からは、イザヤ55章8、9節の「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると、主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道を、わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている。」が響いてきます。

(P. 志村)

年間 第28主日 (A)

(マタイ22:1-14)

今日の福音のテーマは、「婚姻」として描かれている神の恵みと普遍的な救いについてです。神は人間を一人残らず愛し、すべての人が救われて永遠の幸せに達することができるようにと願っています。

天の国は「ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている」と書かれています。食事の用意が整った後、王は家来たちを送り、招いておいた人々を呼ばせましたが、招待客は婚宴に参加するのを拒否しました。何度も招待するのは、選ばれた民に対する神の忍耐強さと優しさです。神は招待客の気が変わるのを願いますが、彼らはあらゆる口実をつけて一向に来ません。こうして招いておいた人々が何度も拒んだため、今度家来たちは善人か悪人かに関係なく、見かけた者誰でも連れて来るようにと町の大通りに派遣されました。すると婚宴は客でいっぱいになりました。

善人も悪人も例外なく王から招かれています。霊的に言えば、神は誰でも婚宴の席に招いておられるのです。イスラエルの民が神の招きを拒絶したため、天の国の扉は異邦人たちにも開かれました。これは、神からの普遍的な救いへの招きです。どんな悪人であろうとも、救いという贈り物は私たち皆に差し出されています。

今日のたとえ話は、神の招きを受け入れるようにと私たちに呼びかけています。さらに私たちは、主の婚礼にあずかるためにはふさわしい礼服を持っていなければなりません。つまり善・清さ・徳によって織られた礼服を身に着ける必要があります。私たちは、洗礼を通じて聖なる生き方をすることに呼ばれています。

(Sr. Paulina)

年間 第29主日

(マタイ22:15-21)

今日のみことばですが、新共同訳聖書では「皇帝への税金」の見出しがついています。イエス様の公生活は、この頃になると、人々から付け狙われるようになって来ますが、その一場面ということになりますでしょうか。

イエスは人々から受け入れられますが、それとは異なってこれまでの言い伝えなどや、権威が否定されることへの危惧から、イエスを排斥して、亡き者にしようとする人々も出てきました。今日の福音の冒頭では、ファリサイ派が出て来ますが、それだけでなく自分たちの弟子をへロデ派の人々と一緒にイエスにところに遣わしたとありますから、イエスを取り巻くイエスに反対する人々が大勢いるということがわかりますね。

イエスの言葉じりをとらえて罠にかけようとする人々。イエスに対して丁寧な態度を取りつつ、悪意のある質問でイエスを陥れようとする姿がありありと描かれています。イエスはそれに応対しながら、切り抜けてゆかれます。

皇帝に税金を納めるのは律法に適っているか、適っていないか。適っているとせばおそらく人々は失望するでしょうし、適っていないとせば皇帝に敵対する者として、ローマ帝国に訴えることができると考えたのかも知れません。いずれにしてもどちらを選んだとしても、イエスを陥れることができると敵対する人々は考えていたようです。

その様な中でイエスは、その人々に対し税金に納めるお金を見せる様にと求められ、持って来たデナリオン銀貨についての問いを發します。「これはだれの肖像と銘か」と。彼らは「皇帝のものです」と言い、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言うことで、「適っているか、適っていないか」という議論から離れることとなります。

イエスのこの巧みな姿を思い起こしながら、私たちも困難に直面した時、神に助けを求めつつ、その困難を乗り越えてゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第30主日 (A)

(マタイ 22 : 34 - 40)

キリスト者の生き方の本質は、神への愛です。「どの掟が最も重要か」と質問されたイエスは、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。そして隣人を自分のように愛しなさい」という2つを答えます。「神を愛しなさい」だけでなく「隣人を愛しなさい」も掟として一緒に挙げられました。神を愛しながら隣人に心を配らないのは不可能です。神を愛することは隣人を愛することだからです。イエスはこの2つの掟の重要性を強調します。

この2つの掟は、切っても切れない1つの掟です。イエスの掟には、「自分を愛する」ことも含まれています。これは、ないがしろにされがちですが、他の掟にとって大切なカギとなる要素です。イエスによると、神を愛すること、隣人を愛すること、自分を愛することという3つの方法で真実の愛を表さないとはいけません。イエスは神を愛することと隣人を愛することを命じましたが、自分を愛することがあらゆる愛の土台です。自分を愛して敬うことによって、他者を愛して受け入れるにふさわしい者となり、これが神を本当に愛しているしるしとなります。最も重要な掟とは、神を愛するだけでなく、ファリサイ人がなかなか守れなかった隣人を愛することも言います。彼らは神を大いに愛し、律法を忠実に厳守していましたが、隣人を愛することについては冷淡かつ無関心でした。私たちも、神だけを愛し隣人を愛の対象から除外することがたびたびあります。そしてキリストの教えと愛のメッセージから逸れてしまうのです。

教会の聖人や殉教者は、最も重要な愛の掟を実践した最良の模範です。彼らはこの掟を完全に生き、神と隣人を愛するために全生涯をささげる覚悟がありました。神への真実の愛は、隣人を愛し、隣人が必要なものを祈り求める熱心さで示されます。隣人を愛するとは、一人ひとりを神の子どもと認めることです。心から神を愛することと隣人を愛することとは、神と手を取り合って、罪から離れて聖性と真理の道を歩むことを意味します。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(90)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

堅忍

祈り（念祷）に対してとても特別な愛情を抱きましたので、祈りをする人々と交わる以上に大きな喜びは、私にはありませんでした。ある人々は、それは狭い道だと言っています。私はそうは思いません。約束された国に私たちを確実に連れて行ってくれる王道だと思っています。祈りにいそしむ靈魂は、巣箱の中で蜜を作る蜂のようです。こうして、神へと向かって飛び立ち、その甘美さに満たされると、彼らは世界中にそれを広めることができるのです。

たしかに私たちはどこにいても祈らなければなりません、私たちはとても弱いので、孤独のひと時を探し求め、毎日、主にささげる時間を取り決めておくことは良いことです。そして一度祈り始めたならば、何か些細なことではやめずに、私たちの主が約束された命の水を飲むまで祈りに堅忍することは良いことです。そうして、断固たる決意をもって始め、私たちをととても愛してくださっている方の現存の内にとどまる時間を、わずかでも毎日、捧げましょう。悪魔が送って来る多くの無味乾燥や障害や散漫によって、祈りを決してやめてはなりません。主がすべてを一気に報いてくださる時が来るからです。それに何でも、ちょっと努力せずには、学ぶことはできないのですから、その努力のかがいがあったと満足することでしょう。私は言いますが、主がその現存を味わわせてくださるその瞬間に、祈り求める時に耐えたあらゆる労苦は報われるのです。キリストに、またキリストが私たちへの愛のために忍ばれたすべてのことに目を注ぎなさい。すべてはほんのわずかなことになるでしょう。

(P. 九里訳)

いのちの言葉 10月

皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

(マタイ 22・21)

イエスはエルサレムに入城し、人々から「ダビデの子」と呼ばれます。マタイ福音書は、神の御国の到来が迫っていることを告げに来たキリストに、この「王家を現わす呼び名」を用いています。

この場面において、イエスは、質問を投げかける人々と特異な問答を交わします。彼らはヘロデ派とファリサイ派という二つの、ローマ皇帝の権力について異なる考えを持つ人々です。皇帝に税金を納めるのは正しいか否かをイエスに問い質し、皇帝に与(くみ)するのか敵対するのかと迫ります。とにかく何らかの言いがかりをつけようというものです。

けれどもイエスは、さらなる質問をもって答えます。「銀貨に刻まれているのは誰の肖像か」と。それは皇帝の肖像であるため、イエスはこのように言い放ちます。

皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。

では、何が皇帝のもので、何が神のものなのでしょう。

イエスの言葉は、「一切に神が先立つこと」を思い起こさせてくれます。ローマの銀貨に皇帝の肖像が刻まれているように、すべての人間には神の姿が刻まれています。

旧約聖書の「すべての人は神の似姿に造られた」²といった表現にあるように、ユダヤ教の教えには、硬貨に彫られた肖像になぞらえて「人が同じ鋳型で硬貨を鋳造するとき、それらはみな同じである。しかし、王の中の王である、祝福された聖なる方は、すべての人を最初の人と同じ鋳型で鋳造され、しかも誰一人として同じ者はいない」³とあります。

神にのみ、私たちはすべてを捧げることができます。神にのみ私たちは帰属し、神のうちにのみ、私たちは自由と尊厳を見出します。どんな人間にも地上の権力も、神に対する忠誠と同じものを私たちに求めることはできません。

神を知り、正しく神の位置づけができるよう、私たちを助けてくれる存在があるとすれば、それはやはりイエスです。イエスにとって「愛するとは、思いも心もエネルギーも、命すらもかけて御父のみ旨を果たすことでした。イエスは、御父がもっておられたご計画のために、ご自分のすべてをお与えになったのです。福音には、イエスが常に完全に御父の方に向かっておられた姿が描かれています。...愛するとは、愛するお方の望みを果たすことです。それも中途半端ではなく、私たちのすべてを尽くし、『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして』果たすのです。...このように生きるため、私たちには、本当に徹底的な姿勢が求められます。神にすべてを差し出す必要があり、それ以下はあり得ません。心のすべて、精神のすべて、思いのすべてが求められるのです。」⁴

皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。

私たちはしばしばジレンマに陥ったり、難しい選択を迫られて、安易な抜け道への誘惑に駆られたりします。ここでイエスも、主義主張の異なる二択を突き付けられますが、イエスにとって明白なのは、愛が第一に来る、神の御国が到来することが何にも先立つ、ということです。

私たちもこのみ言葉を自身に問いかけてみましょう。私たちは、名声を得ることや、輝かしいキャリアなどに心を奪われていないでしょうか。成功者やインフルエンサーになることに憧れていないでしょうか。本来神が占めるべき場所を、他のもので埋めてしまっていないでしょうか。

イエスはこのみ言葉をもって、私たちが真剣に自分の価値観を見直すよう呼びかけ、人生の質を変えることを提案しておられます。

良心の奥深くで、私たちはある声に耳を傾けることができます。その声はときにか細く、他のさまざまな声にかき消されているかも知れませんが、聞き分けることは可能です。私たちが絶えずきょうだい愛の求道者となり、世の流れに逆らうことになってでも、たゆまずこの選択を新たにしようと促す声です。

これは、他者と本物の対話をするための土台を築き、彼らと共に、人生のさまざまな課題に対処するための訓練です。それは、社会に対する個々人の責任を回避するというのではなく、共通の善のために、無償の奉仕に自分を差し出すことを意味します。

ディートリヒ・ボンヘファーは、ナチズムに対する市民的抵抗のために投獄され、処刑されるに至りますが、獄中で婚約者にこう書き送っています。「私が言う信仰は、現世からの逃避ではなく、世を耐え忍び、世があらゆる苦難をもたらそうとも、世を愛し、世に忠実であり続ける信仰だ。我々の婚姻は、『神の地』に対する『肯』であり、地上で働き、何かを創造する勇気を、私たちの内に強めるものでなければならないのだ。私は、地上に片足だけで立とうとするキリスト者は、天国においても片足のみで立つことになるのではないかと恐れている。」⁵

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. 創世記 1 章 26 節参照
3. Mishnà Sanhedrin (ミシュナー・サンヘドリン) 4,5 (ユダヤ教のモーセ五書トラーに關する註解や議論：口伝律法 を集成した文書の一つ)
4. キアラ・ルービック「いのちの言葉」2002 年 10 月
5. ディートリヒ・ボンヘファー、マリア・フォン・ヴェーデマイアー著『婚約者との往復書簡 1943-1945』新教出版社 1996.12(但し引用文はイタリア語原文からの私訳)

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年7月10日

オーストラリア：幼きイエスの聖テレジア列福100周年記念を祝う



2023年4月29日、オーストラリアのメルボルンにある跣足カルメル在世会の十字架の聖ヨハネ共同体は、ビクトリア州グラッドストーン パークの善き牧者教会に集まり、幼きイエスの聖テレジア列福100周年記念をお祝いしました。ディシャン カンダッパ神父, OCDS. は、彼の教会で在世会共同体と訪問者たちのために、幼きイエスの聖テレジアに捧げる特別ミサを司式し、祭壇には聖女の一級品の遺物が置かれました。

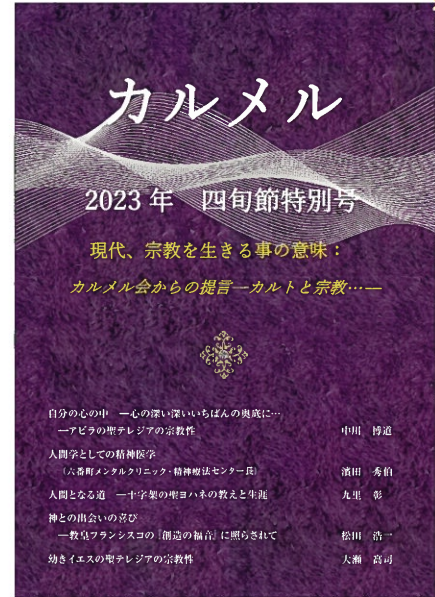
ミサ後わたしたちは教会のホールに集まり、お祝いの食事会と交流のひと時を楽しみました。

そこにはカルメル会の資料を並べた二つのテーブルがあり、一つは幼きイエスの聖テレジア列福100周年記念に関するもの、もう一つは様々なカルメル会のパンフレットがありました。この集まりは、祝福と喜びに満ちた機会でした。

わたしたちは、常に幼きイエスの聖テレジアの歩まれた“小さき道”に従うよう努め、キリストにおける聖女の生涯の豊かさを、より深めていくことができますよう祈ります。

「教会の心臓で、聖母よ、わたしは愛になります。」幼きイエスの聖テレジア

(訳・注:小宮山延子)



2023年 秋号 No.390

《ともに歩む—パンデミックの世界の中で》
 神の善意に参加する、「シノダル」キリスト者
 ポーリン・フェルナンデス

カルメルの外のカルメル
 —教会の外から見られたアピラの聖テレジアと
 十字架の聖ヨハネ(3) 鶴岡賀雄

エディット・シュタインの青春
 —プレスラウでの学生時代 釘宮明美

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の靈性(3)
 ウィリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の靈は導く(7)
 —テレーズ生誕(1873~1897)一五〇周年を迎えて
 伊従信子

風に吹かれて再び(5)—締め切り日 原 造

平和への道(3) 九里 彰

靈的研究会講義録(21)—聖書・祈り・愛について
 奥村一郎

2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味：
 カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちばんの奥底に…
 —アピラの聖テレジアの宗教性 中川 博道

人間学としての精神医学
 濱田 秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯
 九里 彰

神との出会いの喜び
 —教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて
 松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性
 大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

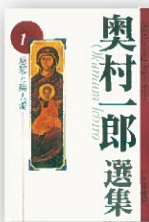
- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。
 〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

奥村一郎選集



カトリック教会は、第二バチカン公会議において、世界の諸宗教・諸文化にも開かれた福音の現代的意義を世界に宣揚した。その精神を深く一身に体現した靈性指導者、それが奥村一郎師である。幼子のような無と赤裸の心で神を求めるカルメル会靈性を深めつつ、禪仏教をはじめとする東洋的靈性との対話に生涯を懸け、日本人の心の琴線にふれるキリスト教を語った。分かつたことのない心で、「すべて」である神へ。



第1巻
慈悲と隣人愛
 解説：西村恵信
 日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。



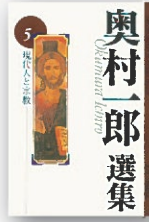
第2巻
多文化に生きる宗教
 解説：橋本裕明
 宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。



第3巻
日本の神学を求めて
 解説：小野寺 功
 日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の視点である相互愛から問いかける。



第4巻
日本語とキリスト教
 解説：阿部仲麻呂
 関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。



第5巻
現代人と宗教
 解説：鶴岡賀雄
 宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。



第6巻
永遠のいのち
 解説：八木誠一
 生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。



第7巻 品切れ
カルメルの靈性
 解説：高園泰子
 カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通して、その靈性の根源に迫る。



第8巻
神に向かう〈祈り〉
 解説：高橋重幸
 東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。



第9巻
奉獻の道
 解説：宮本久雄
 すべての人にみずからを与えつづす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。

全9巻（第7巻のみ品切れ） 四六判・上製／平均240頁 定価各2,200円（税込）
 8冊以上で送料サービスとなります。

オリエンズ宗教研究所 TEL: 03-3322-7601 FAX: 03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンズHP、FAX、ネット書店などへ

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933年スペイン、バレンシア生まれ。1950年跣足カルメル修道会入会。

1957年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018年10月27日マドリードにて帰天。享年85歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990年カルメル会入会。1997年司祭叙階。1999~2002年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための靈性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した靈性生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 愚（1）
- 第2章 皆 愚（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。その後、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した靈性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

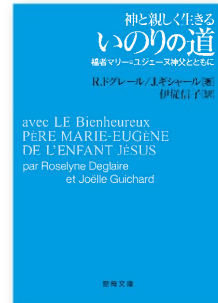
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



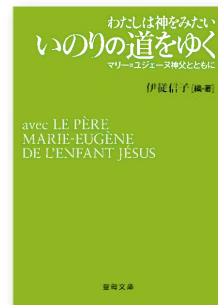
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

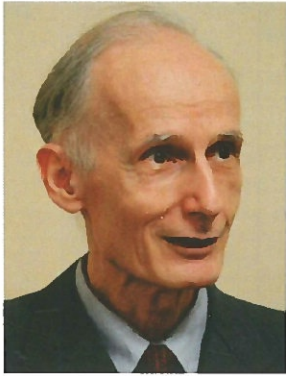
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年4月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

~~2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》~~

【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

4月29日～30日

7月8日～9日

9月23日～24日

11月18日～19日

2024年

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》

~~2023年 4月19日 5月17日 6月21日 7月19日~~

~~9月20日 10月11日 11月15日 12月20日~~

~~2024年 1月17日 2月21日 3月20日 中止~~

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付) 志村武神父

~~2023年 5月11日 7月6日 9月21日 11月9日~~

~~2024年 1月11日 3月7日 中止~~

- ・一泊黙想会(土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

5月20日～21日

7月1日～2日

9月30日～10月1日

11月11日～12日

2024年

1月13日～14日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日17時～最終日朝食) カルメル会士

~~2023年8月16日(水)～25日(金)~~

~~8月1日(火)～10日(木) 中止~~

~~12月27日(水)～1月5日(金)~~

- ・青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
 2023年 ~~5月13日(土)～14日(日)~~
 2024年 3月23日(土)～24日(日)
- ・召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
 2023年 11月25日(土)～26日(日)
- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)
 カルメル会士
 2023年 4月22日(土)～23日(日)
 7月22日(土)～23日(日)
 10月28日(土)～29日(日)
 2024年 1月27日(土)～28日(日)
- ・特別黙想会 (初日20時夕食なし～最終16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィイ)
 2023年 6月16日(金)～18日(日)
 11月3日(金)～5日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

(2023年10月～2024年3月)

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始
11月25日～26日
2024年
1月20日～21日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父
変更 12月16日→11月11日
2024年
変更 2月3日→**2月10日**

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父
11月8日 12月13日
2024年
1月17日 2月14日 3月20日

【カルメルの霊性】 (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父
アビラの聖テレジア 10月13日～14日
十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父
10月5日 11月2日 12月7日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父
10月10日 11月28日

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可
11/12 (日) ～21 (火) 中川博道神父
12/27 (水) ～1/5 (金) 中川博道神父
2024年
3/4 (月) ～13 (水) 中川博道神父

新企画

【男性のための黙想会】 中川博道神父

11月22日 (水) ～23日 (木) …22日は夕食を済ませ21時までにおいでください。

新企画

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

1泊2日(土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)

10月7日(土)～8日(日)

11月4日(土)～5日(日)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① 2023年10月7日（土）PM5時～10月8日（日）PM5時
（尚、日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定）

著作：使徒的勧告『キリストは生きている』

② 2023年11月4日（土）PM5時～11月5日（日）PM4時

著作：回勅『兄弟の皆さん』



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起きている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

~~4月13日 6月1日 7月6日 9月14日~~ 終了

10月5日 11月2日 12月7日

「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

~~5月23日 6月27日 9月12日~~ 終了

追加 10月10日 11月28日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2023年10月21日（土曜日）14：30～16：30

原初史③ 創世記4章、11章、コヘレト書 カインの問題性とアベルの問題性、アベル性（ヘベル コヘレト書）とキリスト教的霊性

2023年11月18日

アブラハムの霊性、イサクの霊性、ヤコブの霊性とわたしたち

2023年12月16日

出1、2章、10の災いとファラオのかたくなさ、シナイ契約と神の慈愛（ヘセド）

2024年1月20日

ルツ記 人による慈愛（ヘセド）と神の慈愛（ヘセド）

2024年2月17日

民数記の全体構造とメッセージ① 旧世代

2024年3月16日

民数記の全体構造とメッセージ② 新世代

その後のテーマ：ヨシュア記の全体構造とメッセージ、士師記の全体構造とメッセージ、サムエル記の全体構造とメッセージ①、②、列王記の全体構造とメッセージ、エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約+新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2023年12月2日14：00～17：00

【スケジュール】

14:00～14:20 初めの祈り、14:20～15:20 講話、15:20～16:15 ご聖体顕示、念祷、面談、16:15～ミサ

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）
予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
8月 休み
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門 B	10/29(日) 9:30-17:00	Fr.植栗	援助修道会 リヒト宣教室	来間(くるま) 裕美子※ Tel:090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
名古屋 リピーターの会 A	11/3(金・祝) 9:30-17:00	同上	聖霊会八事修 道院 ミッション センター (名古屋市昭和 区)	攪上(かくあげ) 暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 リピーターの会 B	11/4(土) 9:30-17:00	同上	同上	同上
名古屋 フォローアップ	11/5(日) 9:30-17:00	同上	同上	同上
入門 C	11/19(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室	来間(くるま) 裕美子※
サダナ II	11/22(水)17:30- 26日(日)16:00	同上	都内施設 (受付にお問合 せください)	同上
広島サダナ I	2024年1/6(土)9:00- 8日(月・祝)16:00 ※通いも可能です	Fr.植栗 Fr. アレックス	西日本霊性セ ンター(広島市 麻安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel:082-239-0034
フォローアップ	1/21(日) 9:30-17:00	Fr.植栗	シャルトル 聖パウロ修道女 会九段修道院	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax:042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。

●入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は記録的な猛暑が続いておりますが、お元気でお過ごしでしょうか。コロナ感染のため、2020年から休止しておりました「祈りの集い」を再開することにいたしました。

集いの前半では、「祈りについての講話」をいたします。

いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』（2017年、サンパウロ社）を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思えます。

後半では、すべての存在（無機物から植物や動物、私たち一人ひとりの人間）を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所：イグナチオ教会岐部ホール 404 号室
（JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分）

時間：以下の木曜日、13:00～15:00
9月14日（木） 上掲書の「序」
11月9日（木）

主催：慈しみ深き会

指導：^{くのり}九里 彰神父（カルメル修道会）

- * 参加費無料（献金歓迎）
- * 問い合わせ先：042-473-6287 篠原（11:00～20:00）



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
2023年12月号も以て、冊子の発行を終了致します。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

